

伝え、繋ぐ原風景

ホタルの幻想的な光を見ることが出来る川や、アカウミガメが産卵に帰ってくる海岸……。今回の特集では、岡垣町が誇る豊かな自然の現状と、これらを後世に残すための活動について考えます。

問い合わせ 住民環境課



①

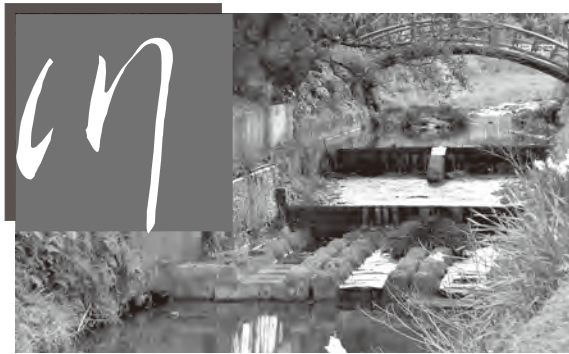
自然豊かな岡垣町

町の中央部には汐入川、東部には矢矧川が流れ、両河川の流域は農産物の産地となっています。また、北部は響灘に面し、全長約6キロメートルにわたって松林が続く三里松原が、美しい海岸を形成しています。

このように豊かな自然の恵みを受け、町内にはさまざまな動植物が生育・生息しています。



④



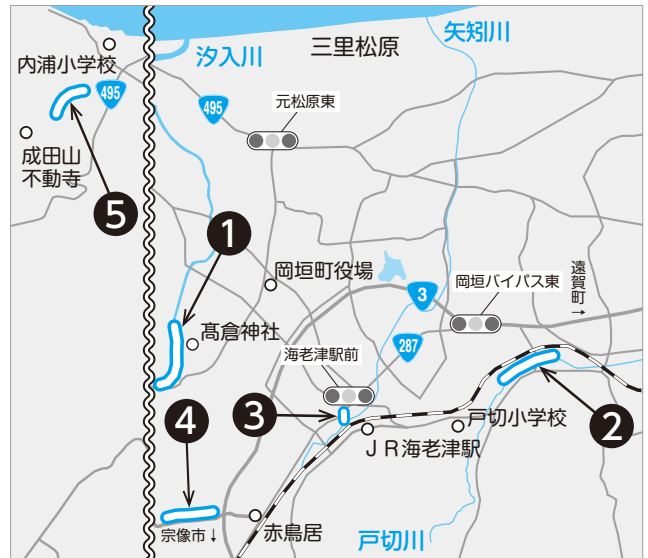
町中を漂う淡い光

町中でホタルと触れ合おう

町内でホタルが見られるのは5月下旬から6月中旬。場所は①汐入川上流(高倉神社付近)、②戸切川下流(戸切小学校付近)、③矢矧川(JR海老津駅の下)、④上畑区、⑤成田山不動寺付近などさまざまです(図1)。また、以下の3つの条件に当てはまる日はホタルが出やすくなるといわれています。

- 湿度と気温が高く、蒸し暑い
- 街灯や月明かりがなく、曇っている
- 風がない

図1 岡垣町ホタルマップ



▲町内の各地で見られるホタル。JR海老津駅のすぐ近くを流れる矢矧川も、町の中心部でありながらホタルを観賞できる貴重なスポットだ

マナーを守ってホタルを見よう

- ☑ ホタルを持ち帰らない
- ☑ ホタルに懐中電灯などの光を当てない
- ☑ 大きな声で騒がない
- ☑ 川にごみなどを捨てない



①②5月下旬～6月中旬にかけて、町内の川沿いではホタルが美しく舞う様子が見られる③三里松原海岸から大海原を目指して懸命に進む子ガメ④絶滅危惧種に指定されているハマボウは、7月上旬から汐入川河口に咲き始める



海

— 海がめもかえる町 —

ふるさとの美しい海岸を大切に

三里松原海岸に産卵にやってくるアカウミガメは、環境省が絶滅危惧種に指定している希少な生物です。本来は暖かい海にすみ、九州では宮崎県や鹿児島県の浜辺で見られますが、黒潮の支流に乗って岡垣町にたどり着いています。アカウミガメが産卵に訪れるのは6月～7月。9月ごろには子ガメが誕生し、大海原へ旅立っていきます。なお、町内で初めて産卵が確認されたのは平成4年。その後ウミガメ調査を開始し、これまで多くの



▲ウミガメの卵

皆様のご協力 ありがとうございました

昨年7月、大雨の影響で大量のごみが波津海岸に漂着しました。一時は立ち入り禁止となっていましたが、多くのボランティアの皆さんのおかげで、アカウミガメのふるさとであるきれいな海岸を取り戻すことができました。多数のご参加ありがとうございました。



▲約300人が参加した清掃活動

産卵・ふ化が確認されています。岡垣町のキャッチフレーズは「海がめもかえる町」。町の豊かな自然を象徴するアカウミガメを大切に守り、育てることで町民が持つふるさとを思う心を育みたいという願いが込められています。



町の自然環境の守り手

町内には町の豊かな自然を守り、後世に残していくために活動している多くの団体があります。

【主な活動内容】

- 森林の再生・保全
 - 里山の環境整備
 - 川の保全・清掃活動
 - 三里松原の生態系や海岸の保全活動
 - ホタルの保護活動
- ほかにも自治区や校区コミュニティ、婦人会など、多くの個人・団体がさまざまな活動を行っています。

多くの人が協力することで町のきれいな自然環境が保たれていることが分かります。

ホタルが飛び交う光景をずっと、これからも

私が子どもの頃はホタルの数が多く、まるで玉のように見えるほど群がり、川面を照らしていました。しかし約30年前、ホタルの数が昔と比べて激減していることに気がきました。

かつての光景を取り戻すためにホタルの人工飼育に挑戦したものの、なかなかうまくいきません。そこで、地元の吉木小学校と共同で「ほたる飼育小屋」を造り、ようやく飼育に成功。徐々にホタルの数が増えていきました。その後ホタルの里を守る会を立ち上げ、本格的な活動を始めてから20年以上経ちます。

現在も川の清掃のほか、吉木小学校の児童と一緒に種ホタルの採取や幼虫の放流を行っています。

たくさんの人にホタルに親しんでもらいたい

毎年5月に吉木校区コミュニティが高倉神社で催す「ほたるまつり」では、町の皆さんにホタルの観賞を楽しんでもらっています。今後もホタルを守る活動を続け、いずれは飼育発祥の地である吉木小学校の校庭で「ほたるまつり」を催し、ホタルが校庭を飛び交う幻想的な風景を多くの人に見てもらいたいですね。

昔も今もこれからも、
ホタルを見守り続けたい



ホタルの里を守る会 会長
こばやかわ とくさだ
小早川 徳定 さん (高倉区)

町の自然は多くの
人の手で守られている——。



岡垣ウミガメ倶楽部 会長
はまだ たかし
濱田 孝 さん (高陽区)

ウミガメが帰ってくる環境。 町が誇るべき「宝物」ですね

ウミガメたちの旅立ちを見守るために

平成4年に三里松原海岸で初めて絶滅危惧種であるアカウミガメの産卵が確認されたときから、有志で観察や保護活動を行っています。平成18年には三里松原海岸の保全とアカウミガメの保護を目的に岡垣ウミガメ倶楽部を発足しました。主にアカウミガメの産卵・ふ化調査や保護、海岸線を始めた自然環境の保全・美化活動を行っているほか、ウミガメの産卵時期である6月～7月は、海岸を毎朝歩いて確認しています。

きれいな海岸に帰って来るのが楽しみです

直近でアカウミガメが町に帰ってきたのは平成27年と、しばらく産卵に来ていません。しかし、6月に行われたラブアース・クリーンアップに多くの人が参加してくれたおかげで海岸がきれいになりました。町が誇る美しい海岸に、アカウミガメが帰って来てくれることを期待しています。

川や海を身近に感じ、知る

町では、平成16年度から町内の小学4年生を対象に自然体験学習を行っています。

この学習では、専門家の指導のもと、町内の川や海に生息している生物を子どもたちが採取し、生物の種類や数で水質を調べます。

身近な自然と触れ合うことで、川や海と人間の暮らしとの関わりを学習。今年度も5月下旬から学習を行い、多くの子どもたちに自然環境への関心を持ってもらおうときっかけになりました。



▶学習で矢矧川の水質を調べる山田小学校の4年生。結果は国の水質基準でいう「ややきれいな水」であることが判明

自然を守るのは「誰か」ではない

岡垣町環境衛生協議会は町の自然環境やごみの減量、雑草対策などの生活環境を守る活動を行っています。中でも、海岸の一斉清掃「ラブアース・クリーンアップ」は毎年多くの人に参加していただいているので、清掃後のきれいな海岸を見ると、この環境をずっと守っていきたくと改めて感じます。今後もこれ

らの活動を継続し、町の環境美化に貢献していきたいです。

岡垣町の自然環境を守るためには、活動している多くの団体の皆さんの力はもちろんのこと、町民の皆さん一人一人が自然を守るためにできることを考え、協力して取り組むことが大切なのではないかと思っています。



岡垣町環境衛生協議会 会長
ひでしま よしみ
秀島 義視 さん(三吉区)